

2026年3月期 第3四半期決算説明資料

FY2026 Q3 Financial Results Presentation



AKIBA HOLDINGS

2026.2.13

CONTENTS

【2026年3月期 第3四半期決算説明資料】

- 01. トピックス・概況
- 02. 2026年3月期 第3四半期決算概要
- 03. 2026年3月期 通期連結業績予想
- 04. 事業セグメント別概況

【参考資料】

会社概要・沿革

2026年3月期の業績予想と各事業の方針・施策

財務情報、株式情報

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況 TOPICS・Overview

1. トピックス：2026年3月期 第3四半期決算

メモリ事業とHPC事業が牽引し、3Q累計で大幅な増収増益を達成 好調な業績進捗を踏まえ、2026年3月期通期業績予想を上方修正

3Q累計で大幅増収増益。
営業利益は前年同期比
159.9%の進捗

当第3四半期累計は、売上高16,914百万円（前年同期比138.2%）、
営業利益563百万円（同159.9%）と大幅な増収増益を達成しました。

メモリ事業黒字化とHPC
事業の拡大、AI需要を取り
込み牽引

メモリ事業が需要増と価格高騰の中で黒字転換を果たしたほか、HPC事業も需要拡大による受注案件増加で拡大。両事業の躍進が連結の収益拡大を牽引いたしました。

3Qまでの業績進捗を
踏まえ、期初時点の
業績予想を上方修正

第3四半期までのメモリ事業及びHPC事業の好調な進捗を踏まえ、
2026年3月期の通期連結業績予想を上方修正いたしました。
売上高 25,500百万円(前回予想比134.9%)、営業利益900百万円(前回予想比136.4%)
経常利益800百万円(前回予想比133.3%)、当期純利益530百万円(前回予想比132.5%)

1. 概況：2026年3月期 第3四半期決算

メモリ・HPC事業の大幅拡大により、3Q累計売上高は前年同期比138.2%、3Q累計の営業利益は同159.9%と大幅増収増益となる進捗

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続きましたが、物価上昇や不安定な為替相場など、先行きは依然として不透明な状況が継続しました。

こうした経営環境下、当社グループは、メモリ・PC関連デバイス事業においてメモリ価格上昇やWindows11移行に伴う需要を的確に捉えたことに加え、HPC事業における大型案件の受注増により、主力事業が好調に推移しました。

この結果、第3四半期累計（3Q累計）の売上高は16,914百万円（前年同期比138.2%）、営業利益は563百万円（同159.9%）と、大幅な増収増益を達成し、順調な進捗となりました。

3Qまでの好調な業績進捗を踏まえ、期初に公表した通期連結業績予想を修正することといたしました。修正後の業績予想達成に向け、第4四半期も各事業における諸施策を確実に推進してまいります。

	2025/3 3Q累計実績	2026/3 3Q累計実績	前年同 四半期比	2026/3 業績予想 (2/13修正)	前期比
売上高	12,243	16,914	138.2%	25,500	139.6%
営業利益	352	563	159.9%	900	125.7%
経常利益	310	556	179.2%	800	120.8%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	45	332	732.9%	530	472.1%
一株当たり 四半期純利益	4.93円	36.15円		57.70円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2026年3月期 第3四半期通期決算概要 FY2026 Q3 Financial Results Summary

2. 2026年3月期第3四半期決算概要：事業セグメント



AKIBA HOLDINGS

メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット

株式会社ブランチテクノ



通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等

※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）

※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併

H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P C テック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等



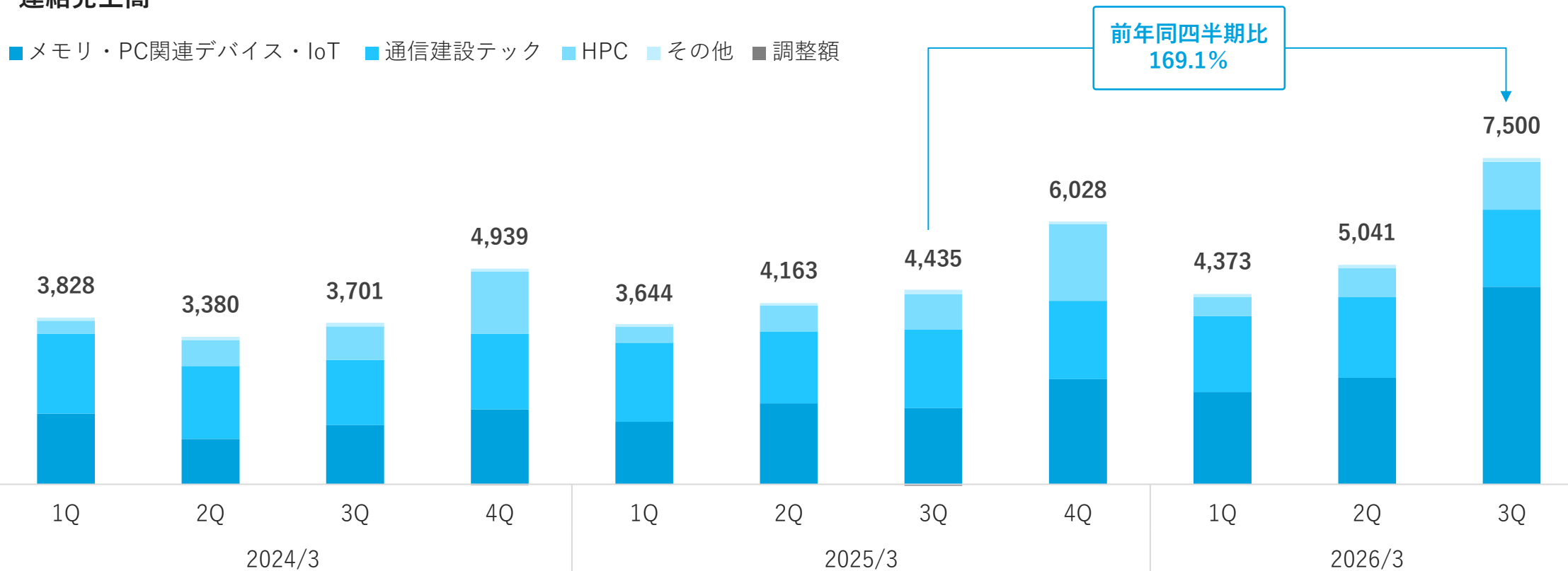
2. 2026年3月期第3四半期決算：事業セグメント別の概況

	売上高	前年同四半期比	営業利益	前年同四半期比	トピックス
連結	16,914	138.2%	563	159.9%	
メモリ・PC関連 デバイス・IoT	9,102	180.3%	63	前期は△83 の損失計上	メモリ価格高騰とAI・PC更新需要を捉え 売上高が大幅伸長、増益で黒字化。
通信建設テック	5,385	102.8%	186	73.9%	売上は多角化進展で堅調。利益は先行 投資で減少したが、体制強化が進捗。 ブランチテクノの黒字化が貢献。
H P C (高性能科学技術計算機)	2,201	124.3%	268	228.7%	最新製品の投入と積極的な販促による大型 案件の獲得が利益確保につながり、3Q累計 で大幅な増収増益
その他 (旅館ほか)	225	122.6%	44	68.1%	平日稼働は苦戦も、機動的な価格設定に より累計売上は堅調。設備の更新・修繕に より減益（全社費用等の調整額を含む）

2. 2026年3月期第3四半期決算：連結売上高

メモリ事業の大幅な伸長に加え、HPC事業も堅調に推移し連結売上高を牽引
第3四半期会計期間の売上高は7,500百万円で前年同期比169.1%と大幅伸長

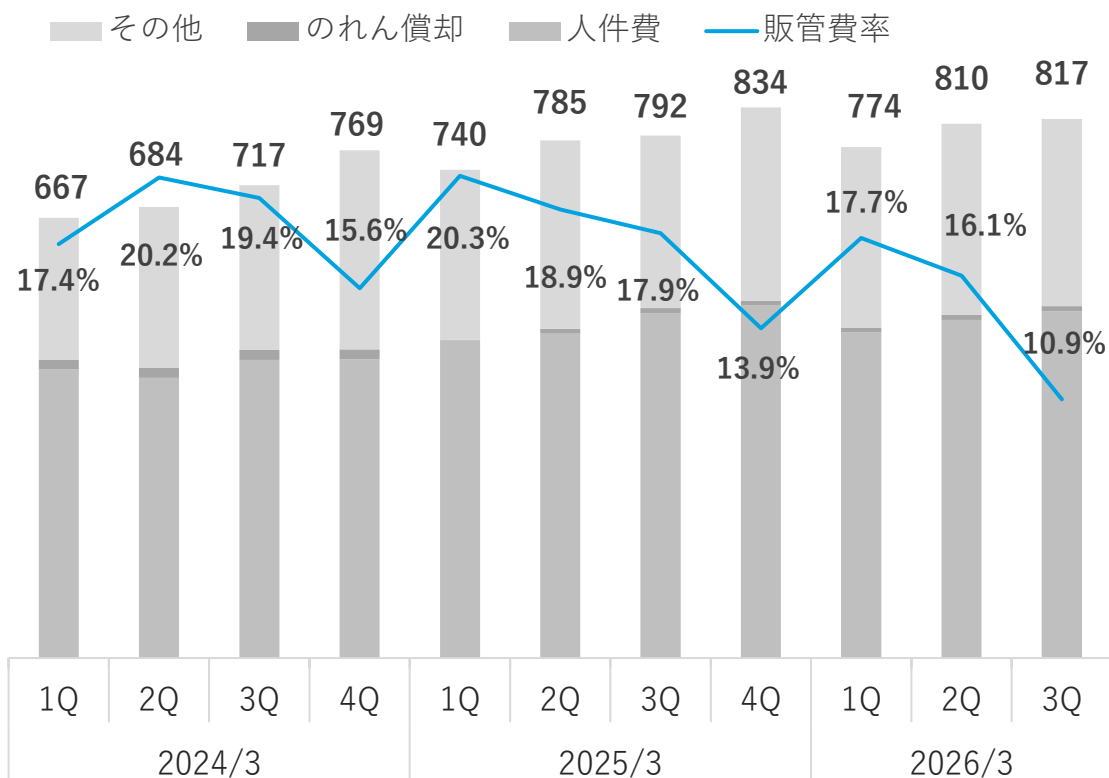
連結売上高



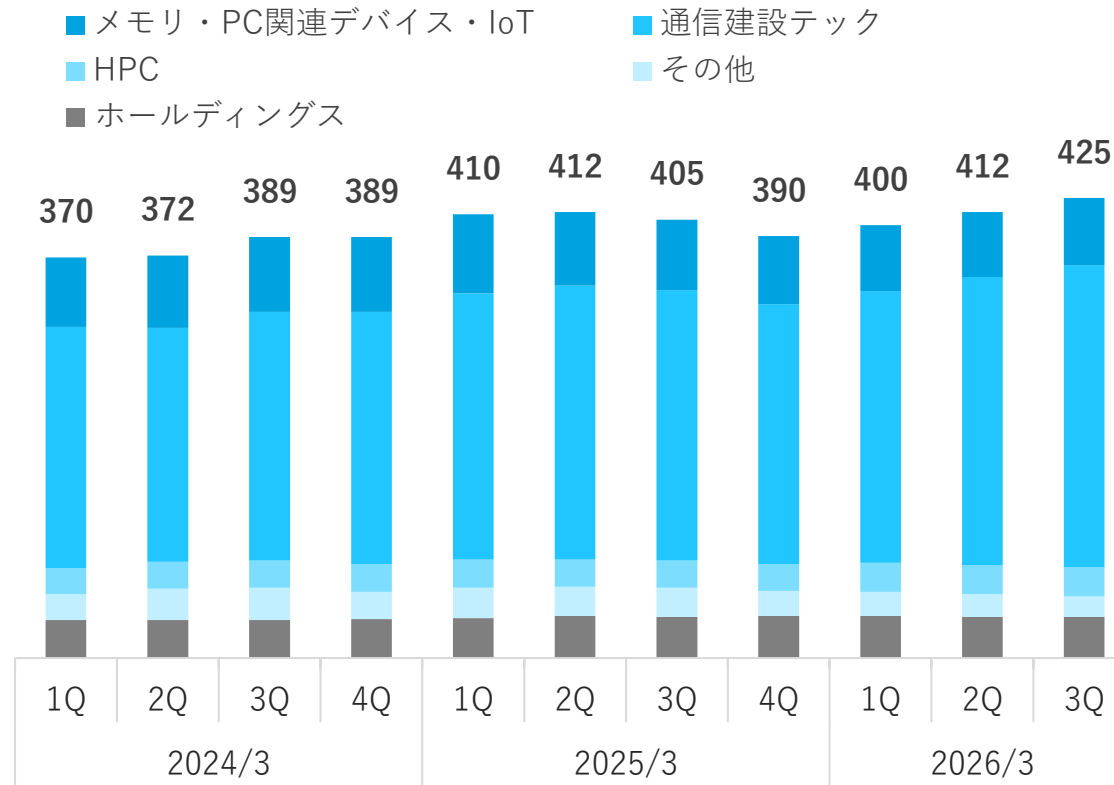
2. 2026年3月期第3四半期決算：販売費及び一般管理費・役職員数

成長投資継続し販管費は前年同期比で増加したものの、大幅増収により販管費率は低下
第3四半期会計期間の販管費率は10.9%（前年同期比 7.0ポイント改善）

販売費及び一般管理費（百万円）



役職員数（人）



2. 2026年3月期第3四半期決算：連結貸借対照表

今後の売上確保に向けた早めの棚卸資産の確保・増加に伴う総資産の拡大

- 棚卸資産・買掛金は、メモリ事業・HPC事業の受注増に対応する仕入増や、部材納期遅延リスクに備えた在庫確保により増加しました。
- 長期借入金の返済が進み、有利子負債合計は前期末と比較して921百万円減少しました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益332百万円を計上したことに伴い、純資産が増加。1株当たり純資産は421.14円と前期末の384.53円から109.5%の水準となりました。

連結貸借対照表

	2025/3末	2025/12末	差異	前期末比
流動資産	12,657	14,106	1,449	111.5%
現預金	5,369	4,354	-1,014	81.1%
売掛債権	5,243	6,204	960	118.3%
棚卸資産	1,428	2,647	1,218	185.2%
固定資産	970	934	-35	96.3%
資産合計	13,627	15,041	1,413	110.4%
流動負債	6,817	8,394	1,576	123.1%
短期借入金	3,650	3,372	-278	92.4%
一年以内返済予定長期借入金	993	921	-72	92.7%
一年以内償還予定社債	60	60	-	100.0%
買掛金	1,403	3,440	2,037	245.2%
固定負債	2,832	2,275	-557	80.3%
長期借入金	2,397	1,856	-540	77.4%
社債	240	210	-30	87.5%
負債合計	9,649	10,669	1,019	110.6%
株主資本	3,531	3,863	332	109.4%
資本金	100	100	-	100.0%
利益剰余金	2,650	2,982	332	112.5%
純資産	3,978	4,372	394	109.9%
負債・純資産合計	13,627	15,041	1,413	110.4%

2. 2026年3月期第3四半期決算：連結損益計算書

メモリ・HPC事業の牽引で大幅増収、各利益も過去最高水準へ

- メモリ事業における需要拡大・価格上昇影響、HPC事業の好調な大型案件の受注増が牽引し、売上高は前年同期比138.2%となりました。
- 増収効果により、売上総利益も前年同期比111.1%と伸長しました。相対的に原価率の高い事業の売上構成比が高まったことにより売上総利益率は低下したものの絶対額は増加いたしました。
- 事業基盤の強化に向けた投資の継続により販管費は増加（前年同期比103.7%）したものの、増収効果により吸収し、営業利益は前年同期比159.9%となる563百万円を確保しました。
- 営業利益の大幅な増加に伴い、経常利益は前年同期比179.2%、前期の特別損失が今期計上が無かったことから、親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同期比732.9%の大幅増益となりました。

連結損益計算書

	2025/3 3Q	2026/3 3Q	差異	前年同四半期比
売上高	12,243	16,914	4,671	138.2%
売上原価	9,572	13,948	4,375	145.7%
売上総利益	2,670	2,966	296	111.1%
販売費及び一般管理費	2,317	2403	85	103.7%
営業利益	352	563	211	159.9%
営業外収益	19	62	43	324.5%
営業外費用	61	70	8	114.3%
経常利益	310	556	245	179.2%
特別利益	-	-	-	-
特別損失	150	-	-150	-
税金等調整前四半期純利益	160	556	395	346.5%
法人税等合計	89	166	76	185.4%
四半期純利益	70	390	319	549.9%
非支配株主に帰属する四半期純利益	25	58	32	227.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	45	332	286	732.9%

03

2026年3月期 通期連結業績予想 FY2026 Consolidated Earnings Forecast

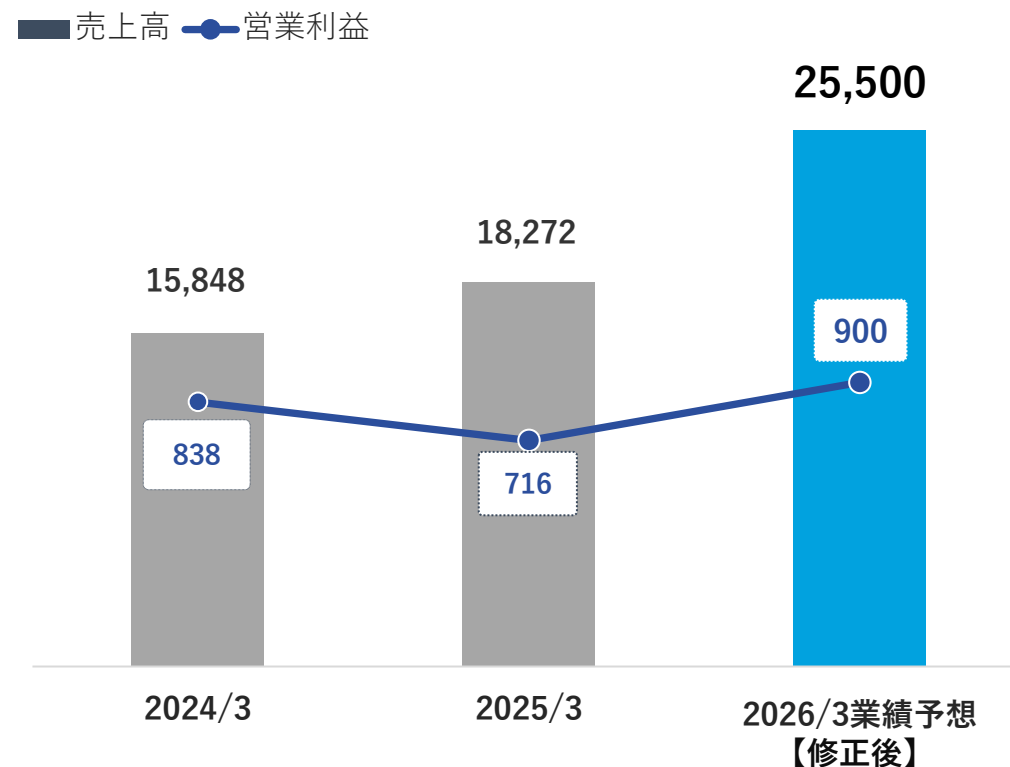
3. 2026年3月期 通期連結業績予想※2/13に期初予想を修正しました。

メモリ事業の大幅伸長とHPC事業が好調に推移したことを踏まえ、
2026年3月期通期の業績予想を上方修正いたしました

通期連結業績予想修正の概要

	2026/3 業績予想 (修正前)	2026/3 業績予想 (修正後)	予想 修正比	前期比 (修正後)
売上高	18,900	25,500	134.9%	139.6%
営業利益	660	900	136.4%	125.7%
経常利益	600	800	133.3%	120.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	400	530	132.5%	472.1%

- メモリ事業・HPC事業の好調により、第3四半期累計で期初予想を上回る進捗となりました。最繁忙期の不確定要素を保守的に織り込んだ上でも、通期全体では当初予想を超過する見通しです。他事業も概ね計画通りであることから、売上高および各段階利益の通期予想を上方修正いたしました。



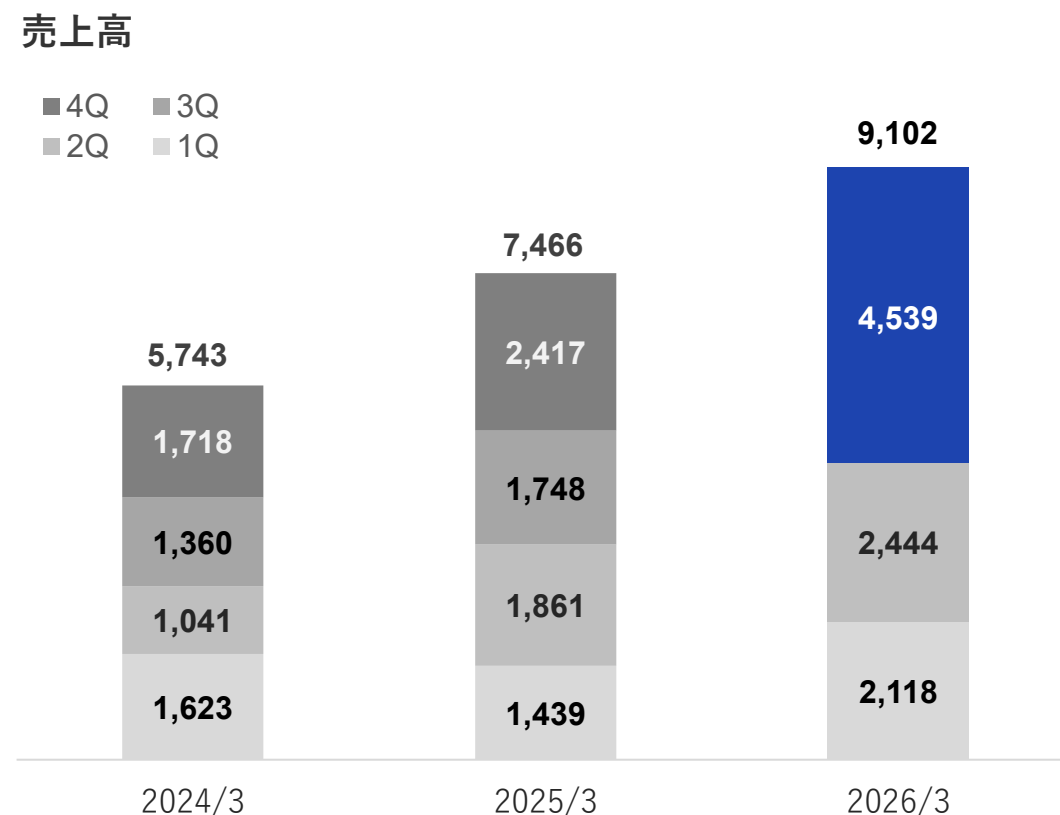
04-1

事業セグメント別概況－メモリ・PC関連デバイス・IoT事業－ Overview by Business Segment

4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：売上高

メモリ関連の市場環境の変化による価格上昇と大型案件の受注により、
前年を大幅に上回り 3 Q累計の売上高前年比で180.3%

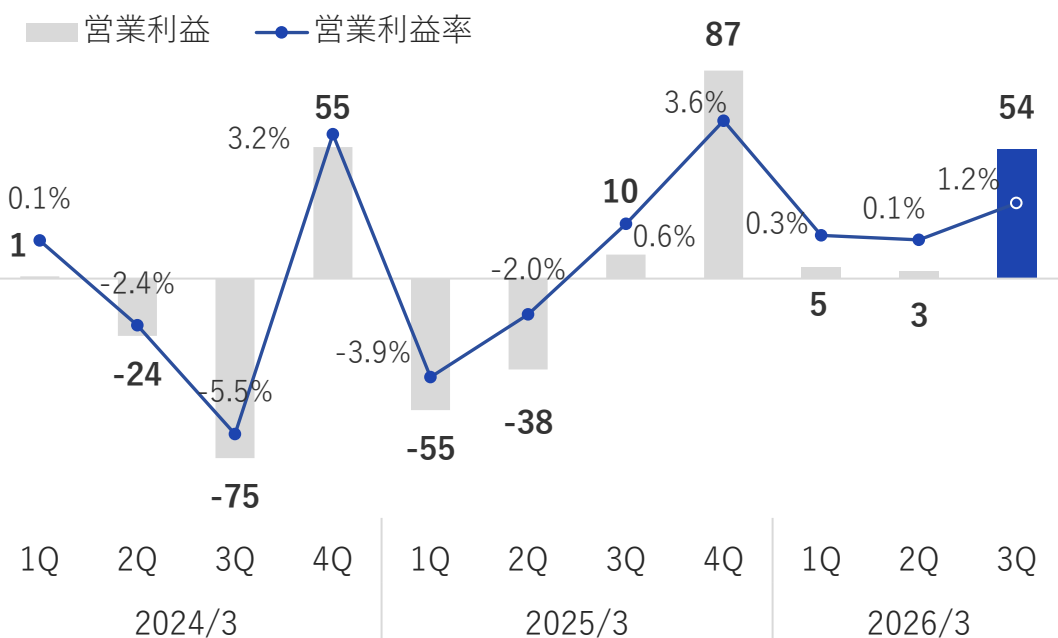
- メモリ・PC関連デバイス事業においては、データセンター需要の増加に起因する主要メモリ製品のメーカー生産終了（EOL）や製品供給不足を背景とした市場価格の高騰に伴い、販売単価が上昇しました。この価格上昇効果に加え、Windows 11移行に伴う底堅い法人PCの更新需要や、大口顧客からの大型の受注増加が重なったことで、売上高は前年同期比で飛躍的に伸長いたしました。
- IoT事業においては、顧客への受託開発案件の提案の継続により案件受注が増加し始めている中、一部案件における検収時期のズレ込みが発生しましたが、既存案件が堅調に推移したことから、第3四半期会計期間については、前年同四半期と同水準の売上高を確保しました。また、新規商材のサービス化を進めており、来期以降の収益拡大に向けた取り組みを推進しております。



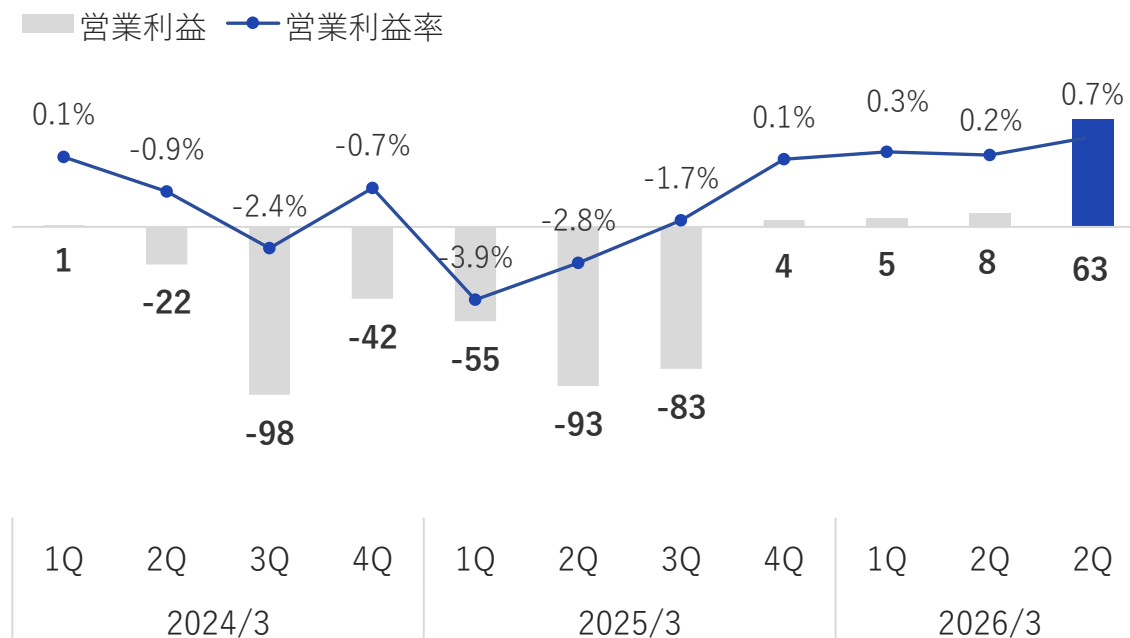
4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：営業利益 会計期間・累計期間

メモリ・PC関連デバイス事業の大幅増収により、大幅増益を達成
価格上昇による調達コスト増も吸収し、3Q会計期間において大きく利益積み上げ

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



■ メモリ・PC関連デバイス事業は、製品調達コストの急騰や円安進行による仕入価格の上昇が、一時期の収益性に影響を及ぼしましたが、販売価格への転嫁等の対策に加え、大幅な増収効果が寄与し、結果として事業セグメント全体の黒字転換及び利益拡大を牽引いたしました。

■ IoT事業においては、前年同四半期並みの収益水準を維持するとともに、将来の成長に向けた新製品開発や人員・組織体制強化等の取組みを継続しております。

4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：ニューストピックス

IoT

プレスリリース 2025.10.16

P/Eサイクル(消去可能回数)10万回対応eTLCタイプ「産業用SD」と「産業用microSD」を 2025年10月16日(木)に発売

～当社従来製品の30倍以上のP/Eサイクルで、産業機器の長期安定運用をサポート～

ADTEC



ADTEC

P/Eサイクル
100,000回!
eTLC(expansion TLC)タイプ
産業用SD 産業用microSD

製品サイト

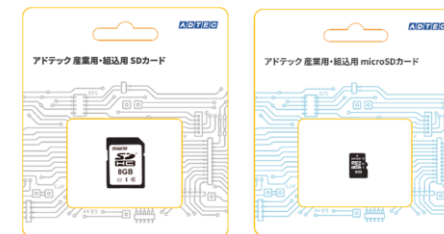
<https://www.adtec.co.jp/product/industry/sd-microsd/>

「eTLC(expansion TLC)タイプ「産業用SD」と「産業用microSD」」

3D TLC NANDのほぼ全ての領域をSLCモードに設定し、SLCと同様に使用できるSDカード向けファームウェアを新たに開発いたしました。TLCベースでありながらSLCと同等レベルのデータ保持信頼性を実現し、さらにP/Eサイクルを大幅に向上したeTLC(expansion TLC)タイプの「産業用SD」と「産業用microSD」です。

従来の当社TLC搭載製品が約3,000回程度のP/Eサイクルであったものに対し、eTLCタイプの製品ではP/Eサイクル(消去可能回数)が約100,000回へ向上し、30倍以上の耐久性を実現することで、一般的な擬似SLC仕様のMLC製品TLC製品のみならず、従来のSLC製品をも上回る高い耐久性を備えております。

監視カメラや業務用ドライブレコーダーといった24時間稼働の機器はもちろん、工場設備や製造装置における稼働データの保存・交通インフラでの動作記録・大容量データのバックアップ用途のほか、従来SLCレベルの信頼性が求められていた用途にも安心してご利用いただけます。



04-2

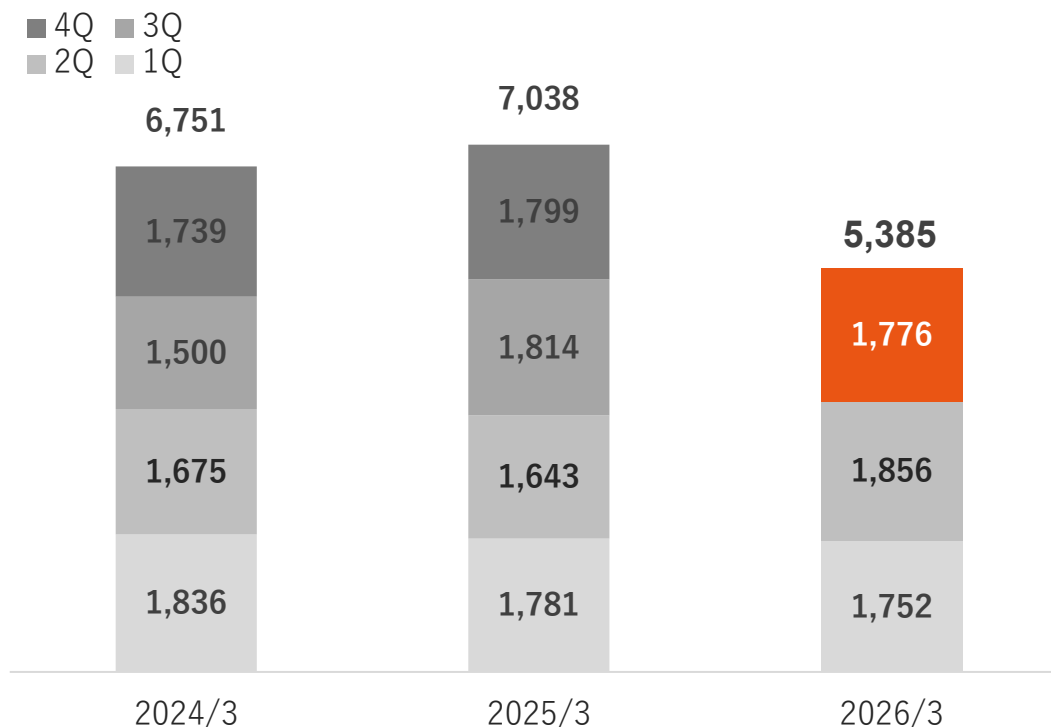
事業セグメント別概況－通信建設テック－ Overview by Business Segment

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック-：売上高

ロボット・カメラ関連やコンタクトセンター事業が収益の柱として、事業領域の多角化が進展し、売上高は3Q累計で前年同期比102.8%と堅調な進捗

- 主力である屋内電波対策工事は、一定の工事完了件数を確保するとともに、サービスロボット関連の導入やクラウド型カメラの設置工事が拡大基調で推移いたしました。
- コンタクトセンター事業も堅調に推移したことにより、売上高を牽引しました。再生可能エネルギー関連については、中期的な業績寄与に向けて受注高は積みあがっているものの、大型案件の検収時期が第4四半期以降になったため、当四半期におけるセグメント全体の売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。
- 自社サービスとして2025年11月にITデバイスの保守サービス「BuddyQr」、2026年1月にロボット導入・保守サービスの「ROBONARA(ロボナラ)」をリリースしており、全国での施工・保守体制を活用したストック型サービスの拡大を進めております。
- ブランチテクノにおける通信キャリア向けの基地局関連工事においても、既存案件が順調に進捗したことに加え、バディネットとの連携によるグループシナジーを活かした案件推進が進捗したことにより、前年同期※を上回る売上高を確保しました。

売上高

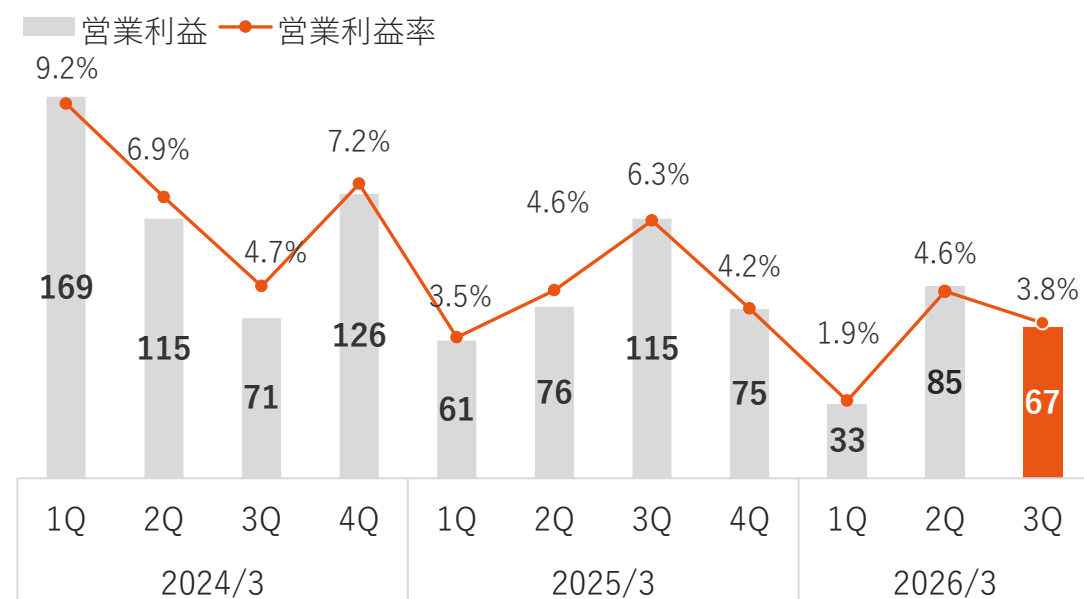


※ブランチテクノは2024年7月からの連結開始のため、前年同期比較は2024年7月(第2四半期)～2024年12月(第3四半期)の6ヵ月間の数値に基づいています。

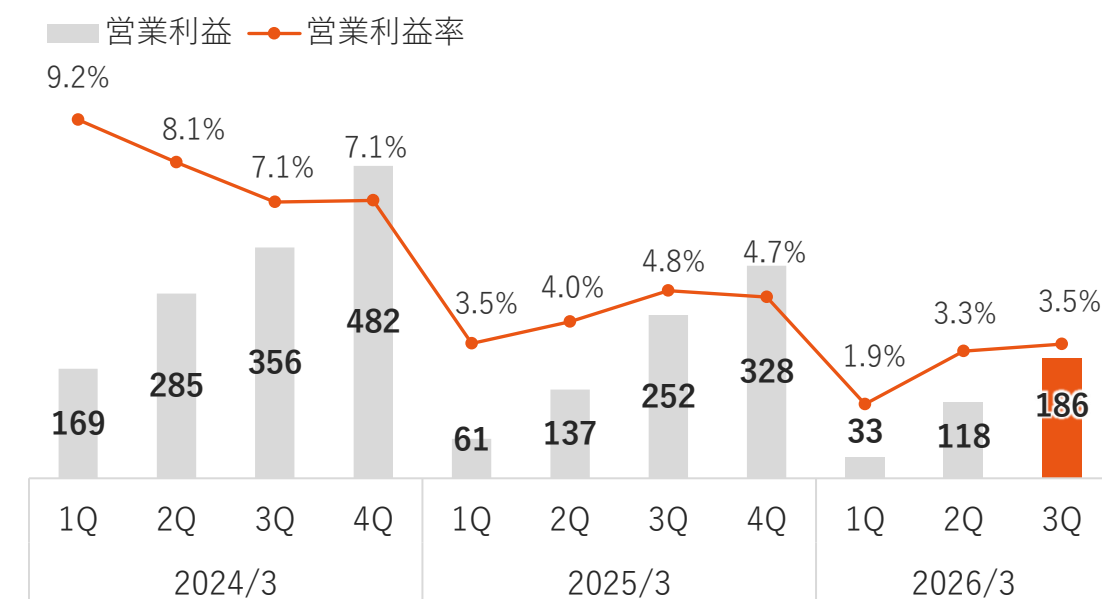
4-2. セグメント別概況 -通信建設テック- : 営業利益 会計期間・累計期間

事業拡大に向けた人的投資／拠点強化を加速、先行費用増加も将来の収益基盤を強化

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- バディネットについては、屋内電波対策工事の安定した売上計上、サービスロボット関連事業、クラウド型カメラ設置事業、コンタクトセンター事業（アルコールチェック代行サービス等）の売上拡大が収益基盤の安定に貢献しました。各事業が堅調に推移したことで売上総利益は増加いたしました。将来の事業拡大を見据えた積極的な人的投資を行った影響により、前年同四半期の営業利益を下回る進捗となりました。
- ブランチテクノにおいては、バディネットの営業連携によるグループシナジーを活かした案件推進による稼働率の向上と、販管費の適切なコントロールが奏功し、一定の営業利益を確保いたしました。

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース

2025.11.5

一般社団法人ロボットデリバリー協会参画のお知らせ

株式会社バディネットが、利便性と安全性を備えたロボットデリバリーサービスの基盤構築及び早期の社会実装を目指す一般社団法人ロボットデリバリー協会の正会員として参画いたしました。今回の参画により、ロボット関連事業で培ったノウハウや経験を活かし、特に自動配送ロボット導入に不可欠なインフラ構築、及び導入後の保守・メンテナンスの部分において、ロボットデリバリー協会様の取り組みに積極的に関与することで、自動配送ロボット社会実装の実現に貢献してまいります。



ロボットデリバリー協会
ROBOT DELIVERY ASSOCIATION



▶ロボットデリバリー協会について

ロボットデリバリー協会様は、自動配送ロボットが公道を走行するための業界における自主的な安全基準の制定や安全基準への適合審査の仕組みづくりに取り組むことにより、利便性と安全性を備えたロボットデリバリーサービスの基盤構築と早期の社会実装を目指しています。
公式サイト：<https://robot-delivery.org/>

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/robot-delivery-251105/>

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース

2025.11.13

最先端ITデバイス向け保守パッケージサービス 「Buddy Qr（バディキュア）」提供開始

株式会社バディネットは、ITデバイスのメーカー及びサービスを展開する事業者様向けに、保守パッケージサービス「Buddy Qr（バディキュア）」の提供を2025年11月13日より開始いたしました。

Buddy Qrは、デバイスに貼付した専用の二次元バーコードをスキャンするだけで、アフターサポートに必要な機能を月額980円から利用できる高機能なサブスクリプション型サービスです。

当社が培った全国カバーの人的プラットフォームにITを掛け合わせることで、少数のデバイスからでも低価格で高品質な保守体制の構築を可能にしました。本サービスを通じてアフターサポートのあり方を革新し、日本社会のIT化を力強く支えてまいります。



Buddy Qr（バディキュア）サービスページ
<https://www.buddynet.jp/service/buddyqr/>

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/buddyqr-release-251113/>

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス



■ 使い方はシンプル。“困ったら、スキャン”するだけ。



■ ICT機器やIoT機器など、様々なITデバイスに対応可能です。 プランは月額980円（税別）～の「機器プラン」と、 月額3,980円（税別）～の「拠点プラン」の2種類がございます。



4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース

2026.1.8

【累計6,000台の実績】バディネット、サービスロボットの導入・保守サービス「ROBONARA（ロボナラ）」提供開始

株式会社バディネットは、サービスロボットのメーカー及び事業者様向けに、ロボットの導入・保守・運用に関わる業務を支援するサービス「ROBONARA（ロボナラ）」の提供を2026年1月8日より開始いたしました。

ROBONARAは、お客様のフェーズやご要望に合わせて、必要なアプリケーションだけを組み合わせた最適なプランをオーダーメイド型で提供するサービスです。

国内のサービスロボット保守代行数量シェア2位（2024年実績）、累計6,000台の実績を可能とした、全国293拠点、計1,040名の施工・保守部隊と、3拠点のコンタクトセンターの施工・保守体制により、機種、メーカーを問わず日本全国で高品質なサポートを実現します。

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/robonara-release-260108/>



出典：富士経済「2025年版 ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望サービスロボット編」
＜サービスロボット保守代行サービス、2024年実績、数量ベース＞

ROBONARA（ロボナラ）サービスサイト
<https://www.buddynet.jp/service/robonara/>

4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

■ お客様のニーズに合わせた「オーダーメイド型」サービス

Service Menu
サービスロボット導入・保守メニュー

導入前：【プランニング・設計】

- ☐ コンサルティング
- ☐ 現地調査
- ☐ 導入設計

導入：【環境構築・実装】

- ☐ キットティング
- ☐ インフラ構築
- ☐ 導入・設定作業

導入後：【アフターサポート・保守】

- ☐ サポートセンター代行
- ☐ オンサイト保守
- ☐ センドバック保守

その他：【システム構築・運用支援・保全作業】

- ☐ システム構築
- ☐ 定期点検・部品交換
- ☐ 倉庫業務（保管・搬入・搬出）
- ☐ マニュアル作成
- ☐ 店舗スタッフ向けレクチャー

Service Menu サービスロボット導入・保守メニュー

導入前：【プランニング・設計】

- ☐ コンサルティング
- ☐ 現地調査
- ☐ 導入設計

導入：【環境構築・実装】

- ☐ キットティング
- ☐ インフラ構築
- ☒ 導入・設定作業

導入後：【アフターサポート・保守】

- ☒ サポートセンター代行
- ☒ オンサイト保守
- ☒ センドバック保守

その他：【システム構築・運用支援・保全作業】

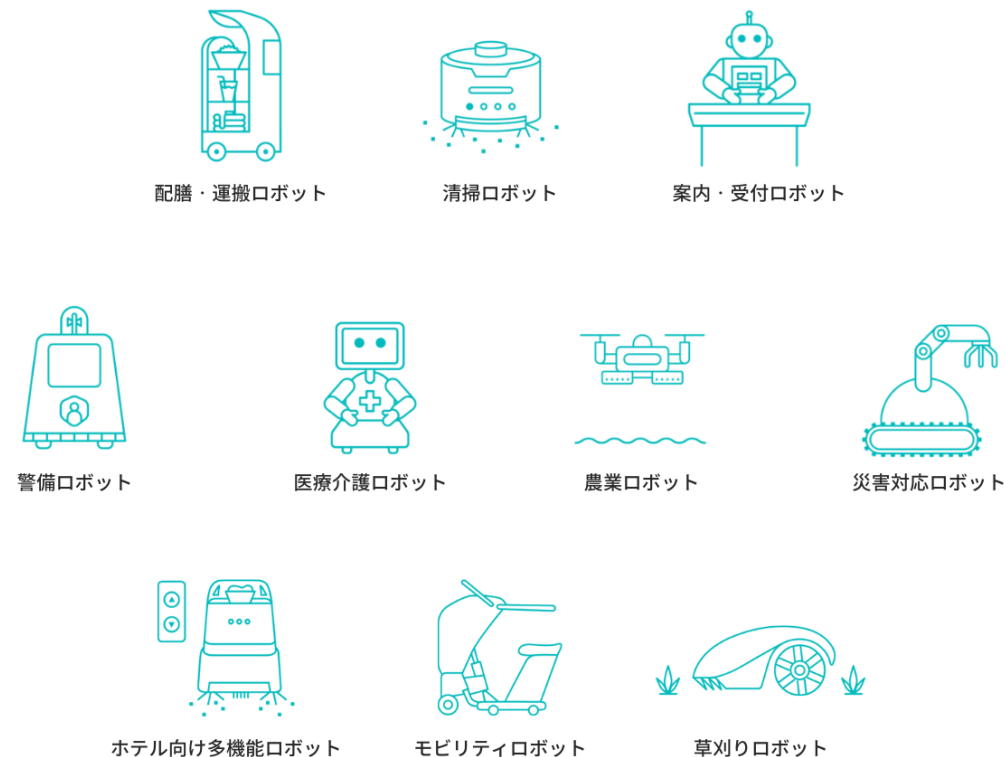
- ☐ システム構築
- ☐ 定期点検・部品交換
- ☐ 倉庫業務（保管・搬入・搬出）
- ☐ マニュアル作成
- ☒ 店舗スタッフ向けレクチャー

必要なアプリケーションを選択

Customized Solution

- ☒ 導入・設定作業
- ☒ サポートセンター代行
- ☒ オンサイト保守
- ☒ センドバック保守
- ☒ 店舗スタッフ向けレクチャー

■ 対象ロボット例



メーカー・機種を問わず、多様なサービスロボットに対応可能です。

サービスロボットの導入・保守に関するあらゆる工程から、お客様のご要望に応じて、必要なものをお選びいただけます。メニューにないご要望もご相談ください。

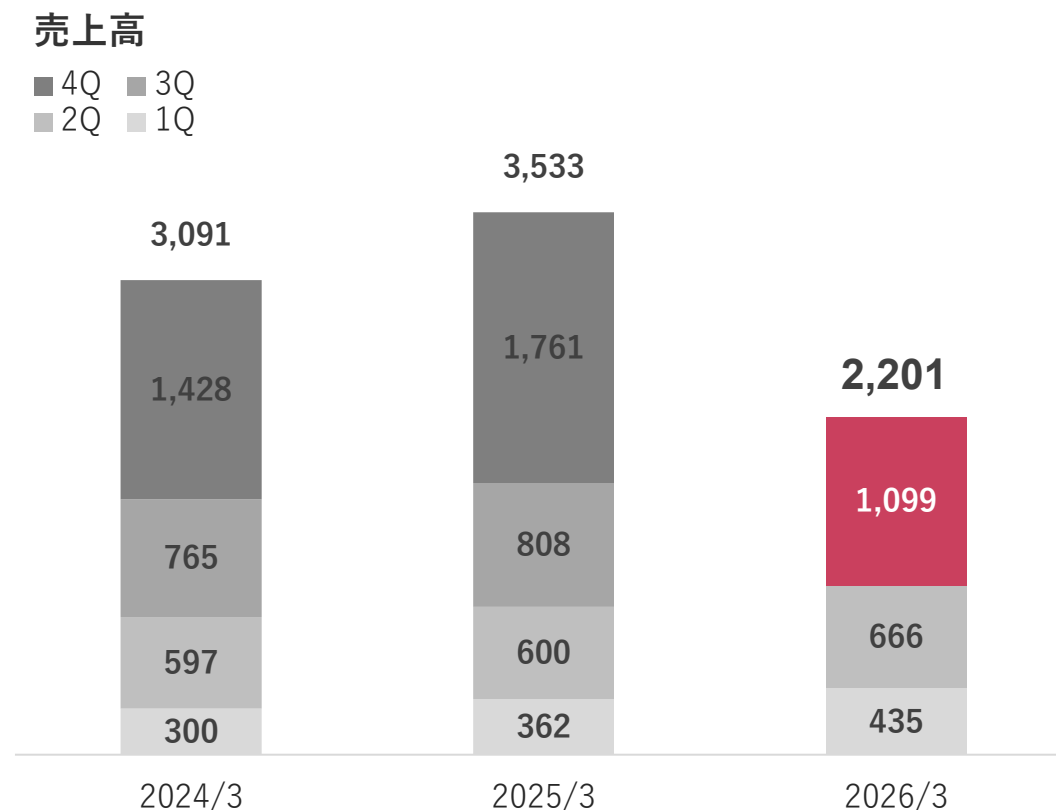
04-3

事業セグメント別概況－HPC事業－ Overview by Business Segment

4-3. セグメント別概況 -HPC事業- : 売上高

最新製品の販売好調、大型案件の獲得、セミナー開催効果等により、
3Q累計売上高は前年同期比 124.3%

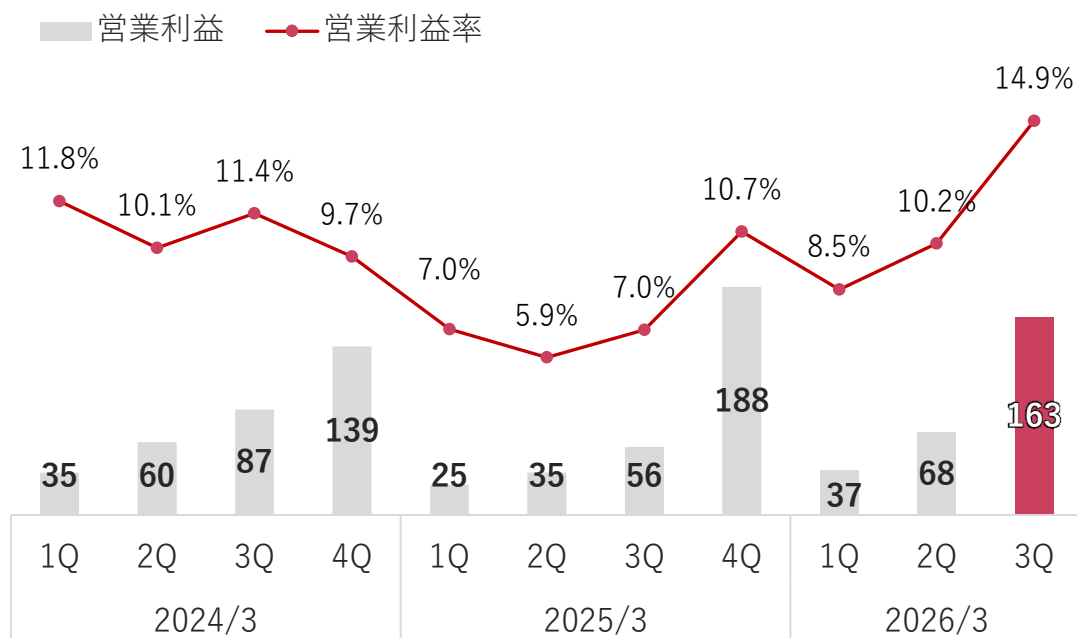
- 最新製品の市場投入に加え、積極的なセミナー開催や積極的な提案活動を展開。旺盛な需要を取り込み、大型案件の受注が急拡大いたしました。
- これらの施策が奏功し、第3四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る2,201百万円（前年同期比124.3%）となり、大幅増収での進捗となりました。



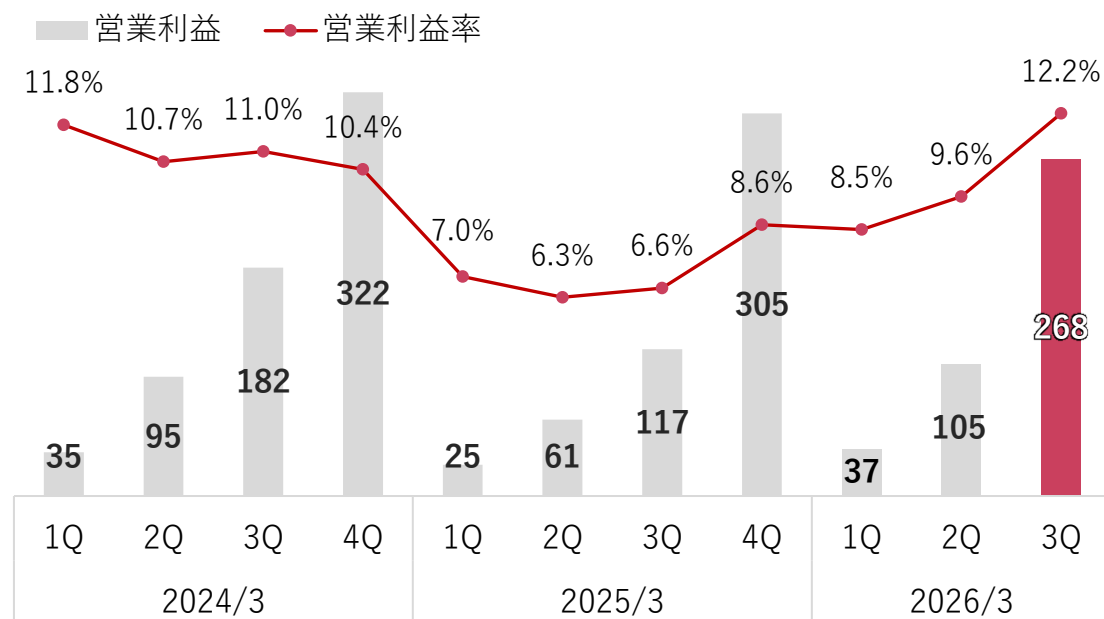
4-3. セグメント別概況 -HPC事業-：営業利益 会計期間・累計期間

売上高拡大、大型案件の受注採算性確保により、3Q累計の営業利益は前年同期比223.1%

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- セミナーや学会等を通じた継続的な販促活動による売上高の拡大及び大型案件の粗利率水準を維持出来た結果、3Q累計の営業利益は262百万円（前年同期比 223.1%）、営業利益率は11.9%（前年同期比 5.3ポイント改善）となりました。
- 半導体不足による納期遅延リスクに対し、早期発注などの対策を実施し、さらなる業績の拡大を目指します。

4-3. セグメント別概況 -HPC事業- ：ニューストピックス

学会・展示会への参加
【機器展示含む】

NGS EXPO 2025

2025年10月実施

第39回分子シミュレーション討論会

2025年10月実施

第35回 日本MRS年次大会

2025年11月実施

人工知能学会 合同研究会2025（SIGAIs 2025）

2025年12月実施

COMSOL Conference Tokyo 2025

2025年12月実施

2025 環太平洋国際化学会議

2025年12月実施

第39回数値流体力学シンポジウム

2025年12月実施

04-4

事業セグメント別概況－その他事業(旅館事業)－ Overview by Business Segment

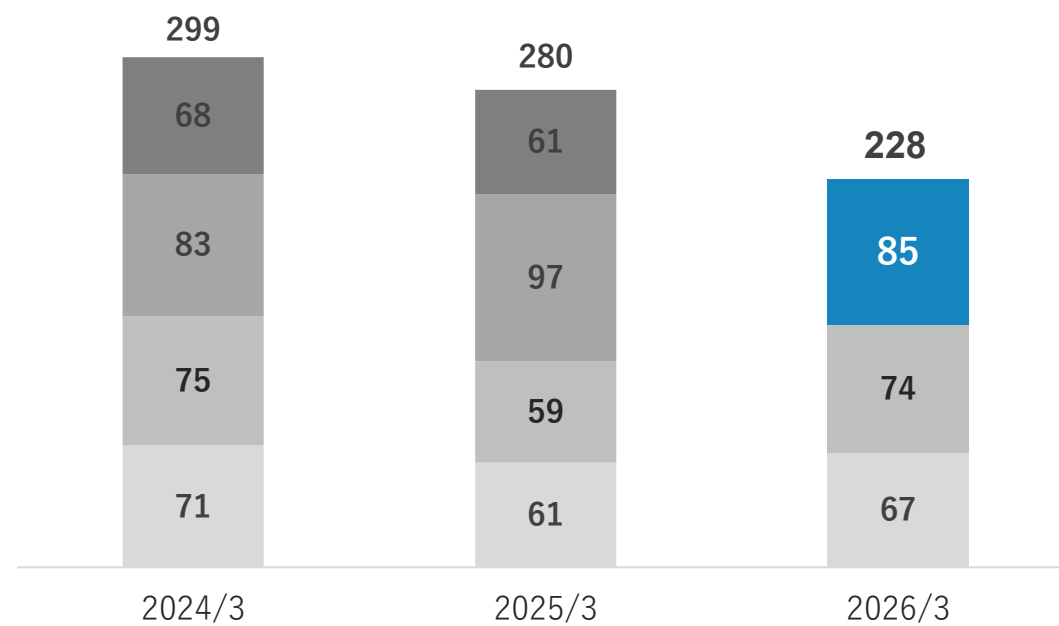
4-4. その他の事業－旅館事業－：売上高

需要の二極化が進む中、機動的な価格設定により累計売上高は堅調に推移

- 国内需要の二極化により平日の稼働率が伸び悩んだものの、機動的な価格設定の効果により、第3四半期累計の売上高は前年同期を上回り堅調に推移いたしました。
- OTA（オンライン旅行代理店）を活用したキャンペーン施策と露出強化を徹底することで、特に閑散期・平日の需要を喚起することで稼働率の底上げを図り、通期目標達成に向けたトップラインの維持に注力いたします。

売上高

■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q



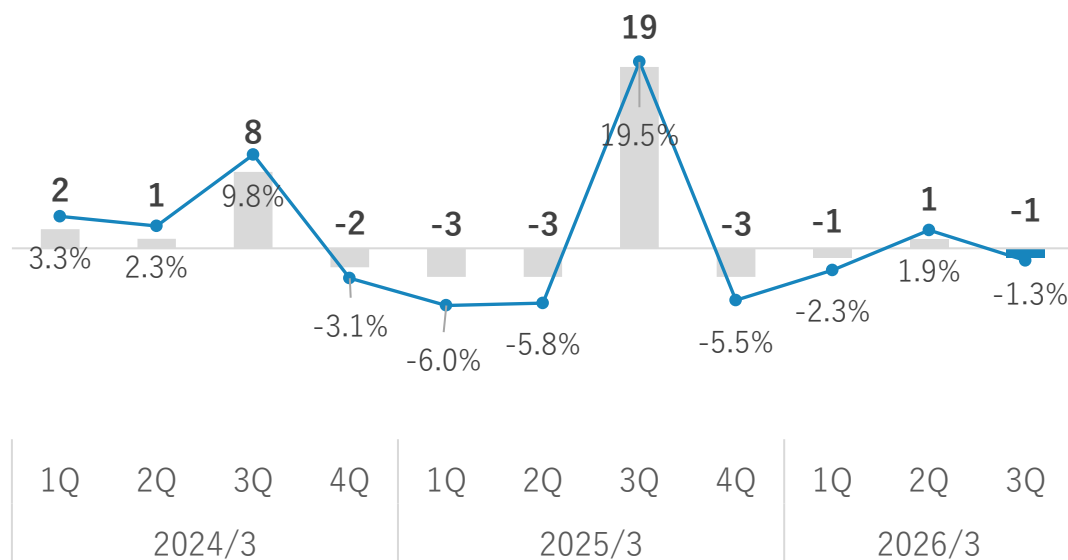
※本スライドに表記している「その他の事業」の業績については、
全社調整額を含まない数値を記載しております。

4-4. セグメント別概況 -その他事業(旅館事業)：営業利益 会計期間・累計期間

運営体制強化や設備更新に伴う負担で前年を下回るが、足元ではコスト適正化に注力

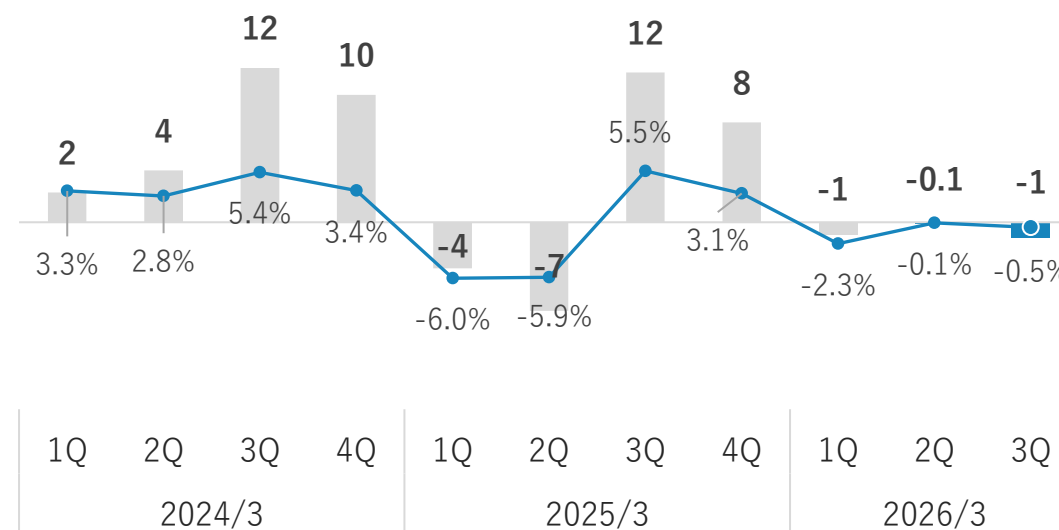
営業利益 会計期間

■ 営業利益 ● 営業利益率



営業利益 累計期間

■ 営業利益 ● 営業利益率



- OTA販売手数料の増加や、設備の更新・修繕を実施した影響が重なり、営業利益は前年同期を下回る推移となりました。
- オペレーションの抜本的な見直しと徹底したコストコントロールを実施し、通期計画達成に向けた収益性の向上に注力しております。
- 一部客室のリフォームによる顧客満足度（CS）向上と、それに伴う客単価の改善を進め、来期以降の収益基盤の強化を推進してまいります。

※本スライドに表記している「その他の事業」の業績については、全社調整額を含まない数値を記載しております。

参考資料 Appendix

会社概要

商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1 億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	425名（連結 2025年12月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 取締役 CFO 管理本部長 取締役 管理本部副本部長 取締役 経営戦略本部長 取締役（社外） 取締役（社外） 取締役（社外） 取締役（社外） 常勤監査役 監査役（社外） 監査役（社外） 補欠監査役（社外） 堀 礼一郎 五十嵐 英 富山 理布 白鳥 俊昭 丸山 一郎 黒部 得善 後藤田 翔 中川 英之 内藤 城次郎 上林 三子雄 西田 史朗 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

沿革

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
2020年代	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業（ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバンを買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
	2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収
	2025.3	株式会社バディネットが株式会社リーバンと吸収合併

企業理念

Mission

持続可能な未来社会をITで実現する

For a sustainable future with IT

Vision

先端技術の追求

先端技術を追求し、製品、サービスの提供及び経営におけるITの最先端企業となります。

持続型企業の形成

ITを駆使して、法令を遵守し、持続的成長が可能な企業形成を推進します。

弛みない革新への挑戦

探究、挑戦することを恐れず、忘れず、革新的なデザインとITの力で社会に革新をもたらします。

新しい価値の創出

日々刻々と変化する社会において、ITを活用した新しい価値を創出し続けます。

事業セグメント及びグループ会社紹介



メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット
株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）
※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併



H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P C テック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

2026年3月期の業績予想と各事業の方針・施策

【2026年3月期連結業績予想概要】

	2025/3 連結業績 (実績)	2026/3 業績予想 (2/13修正)	前期比
売上高	18,272	25,500	139.6%
営業利益	716	900	125.7%
経常利益	662	800	120.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	112	530	472.1%

【グループ全体及び各事業の方針・施策】



AKIBA HOLDINGS

メモリ・PC関連デバイス・IoT

ADTEC

通信建設テック

Buddy Net
Branch Techno

HPC(高性能科学技術計算機)

HPCTECH

その他(旅館他)

Diamond pets & resort

- ❖ グループの健全なガバナンス体制の維持
- ❖ 財政状態の健全・改善推進：ネットCFの黒字化へ向けて利益確保
- ❖ 成長シナリオの推進：グループの継続的な拡大に向けた基盤構築

既存事業の収益改善
新事業領域の開発
経営効率の向上

：取扱製品の絞り込み、在庫水準の最適化等
：これまでの取り組みの絞り込みと新規領域の開発
：コスト見直しの実施、拠点・体制などの見直し

既存事業の戦略的な拡大
新サービス分野への挑戦
再エネ関連工事の拡大

：カメラ・ロボット関連等対応強化、組織体制整備
：既存事業をベースにした新サービスへの挑戦実施
：リーバンとの合併による再エネ関連の全国展開

AI分野の提案内容拡大
新製品用の水冷製品開発

：生成AI分野でお客様への提案内容の拡大
：CPU TDP500W, GPU TDP 600Wに向けた
水冷サーバ・水冷環境の開発

インバウンド顧客獲得
特色を活かした取り組み
不動産事業の開始

：海外向けの集客メディア掲載で海外顧客獲得
：季節感を打ち出したイベント・新メニュー開発
：適切な案件実施により、収益機会の獲得

財務情報（業績、経営指標の推移等）

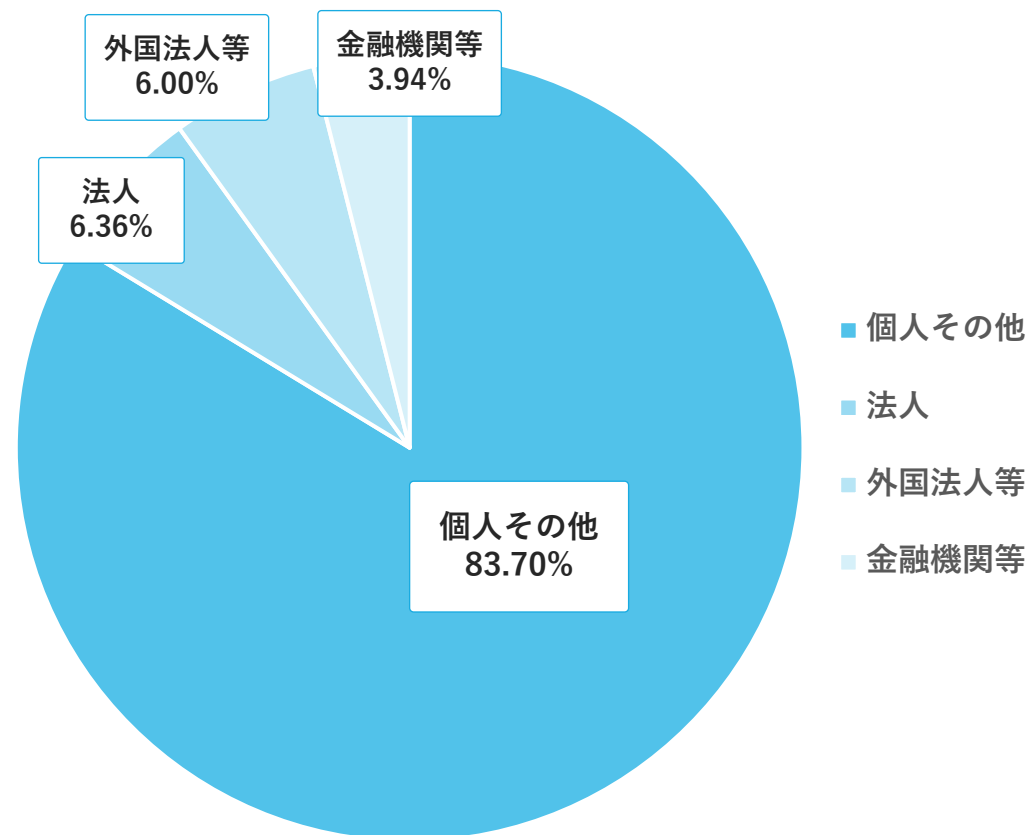
	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
売上高(千円)	12,574,151	14,742,554	16,166,841	15,007,149	15,848,974	18,272,045
経常利益(千円)	636,377	682,843	711,268	1,031,089	844,773	662,301
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	654,580	345,839	382,352	702,077	292,567	112,268
包括利益(千円)	702,237	396,663	426,161	753,768	367,902	183,053
純資産額(千円)	1,850,742	2,247,178	2,673,308	3,427,077	3,794,979	3,978,033
総資産額(千円)	6,958,007	8,380,543	9,177,714	10,136,167	11,468,317	13,627,886
1株当たり純資産額(円)	184.75	222.36	264.45	340.36	372.31	384.53
1株当たり当期純利益金額(円)	71.25	37.65	41.62	76.44	31.85	12.22
自己資本比率(%)	24.4	24.4	26.5	30.8	29.8	25.9
自己資本利益率(%)	47.8	18.5	17.1	25.3	8.9	3.2
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△246,303	948,655	△147,249	△20,468	△40,663	△374,342
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	366,840	△183,351	△112,089	△393,662	△212,897	△108,877
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	881,034	396,249	253,343	81,518	971,043	1,696,024
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	2,571,439	3,732,992	3,728,478	3,396,300	4,113,909	5,325,760
従業員数（外、平均臨時雇用者数）(人)	126(97)	164(73)	196(97)	221(119)	241(128)	266(105)

株式情報：株式基本情報、株主構成等

【株式基本情報】

上場証券取引所：東京証券取引所スタンダード市場
証券コード：6840
発行可能株式総数：27,328,000株
発行済株式総数：9,192,560株
単元株式数：100株
株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

【株主構成：2025年3月末時点】





AKIBA HOLDINGS

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません。